

県民の森の植物 No.79 オオバボダイジュ (アオイ科シナノキ属) *Tilia.maximowicziana*

北日本の冷温帯に分布する落葉高木で、このあたりに多いシナノキの仲間です。シナノキの仲間は、花序に「苞(ほう)」と呼ばれるへら型の葉がついています。花のあとに出来る実は、苞を利用してヘリコプターのように風によって落下します。葉は大きな左右非対称のハート型。シナノキと似ていますが、シナノキより大きくて葉裏に毛が密生しているので見分けられます。花は黄白色でとても良い香りがするので、多数の昆虫が集まります。秋に出来る実は1cm近くあり、数珠に利用されてきました。釈迦がその木の下で悟りを開いたことで有名な菩提樹は熱帯産のインドボダイジュ(クワ科)のこと。耐寒性が弱く、中国や日本ではその代用として、本種の仲間の中国原産のボダイジュや、寒地では本種が社寺に植栽されることもあります。県民の森では「市町村の森」に植栽、「野島の森」などでは自生の大木を見ることができます。

芽吹き 2022/5/6 →



オオバボダイジュ冬芽 2023/2/28



オオバボダイジュ若い実 2024/7/18



オオバボダイジュ花 2024/6/29



実【左】オオバボダイジュ【右】シナノキ



葉【左】オオバボダイジュ
【右】シナノキ



オオバボダイジュ幹 2022/10/26